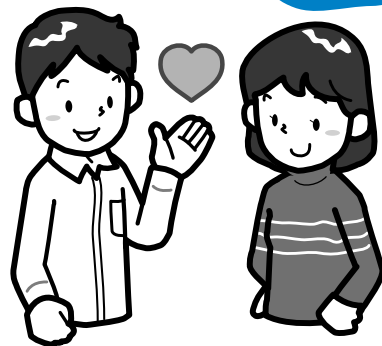


大切にしようこころとからだ 考えよう！思春期の「性」

心をもって
生きるのが「性」



札幌市では、10代の人工妊娠中絶率と性感染症（性器クラミジア）罹患率が、全国の平均と比べて高くなっているという報告があります。原因は性に関する間違った知識の氾濫や、自分は大丈夫というように、人ごととして考えているからと言われています。

思春期を健全に過ごし成長していくことが、将来の新しい命を健やかに育み、また安定した子育て環境の基礎をつくります。子どもたちが、多感な思春期を健やかで豊かに過ごしていけるように、地域やまわりの大人たちに、何ができるのか考えてみませんか？

このページに関する問い合わせ先
健康・子ども課健やか推進係（保健センター） ☎681-1211（内線623）

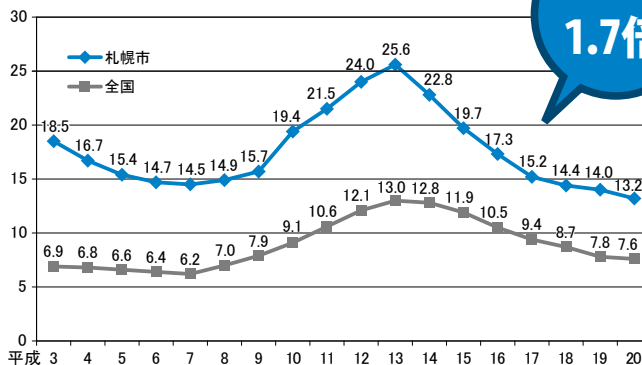
札幌市の現状は？！



札幌市の10代の人工妊娠中絶率は、全国の1.7倍です。人工妊娠中絶は本人の心や体だけでなく、パートナーやお互いの家族の心にも大きな傷を残します。また、望まない妊娠は児童虐待が起こりやすい環境をつくるとも言われています。このような事態を避けるための正しい知識の普及が重要です。

札幌市の10代の性器クラミジア感染症患者数は、全国の3.3倍です。性感染症は、将来の不妊につながったり、子宮けいがんや陰茎がんの原因になるだけでなく、生まれてくる赤ちゃんに感染する危険性もあります。さらに、HIVの感染の確率が高まります。

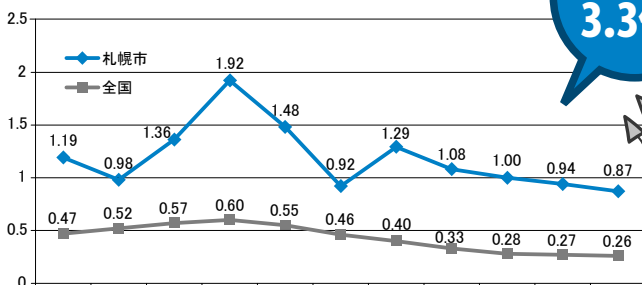
10代の人工妊娠中絶率 (15歳～19歳の女子人口千対の率)



全国の
1.7倍

厚生労働省「母体保護統計」・「衛生行政報告例」、札幌市保健福祉局

性感染症罹患状況 (15歳～19歳、性器クラミジア感染症経年変化、 定点医療機関における1カ月の患者数の平均)



全国の
3.3倍

「感染症発生動向調査」（あらかじめ定められている医療機関（定点）からの報告）

地域での活動を紹介します！ ～10代の性を考える有志の会～

大切なわが子・未来ある若者を心豊かに育てるために、平成11年に前田中学校でPTA活動をしていた母親たちが集まり結成されました。

年に数回、講演会や学習会を行い、タブー視しがちな「性」の話を、一緒に語り合う場ができればと活動しています。



「皆さんも一緒に考えていきましょう」
渡辺代表（写真中央）

◀打ち合わせに集合した
メンバーの皆さん